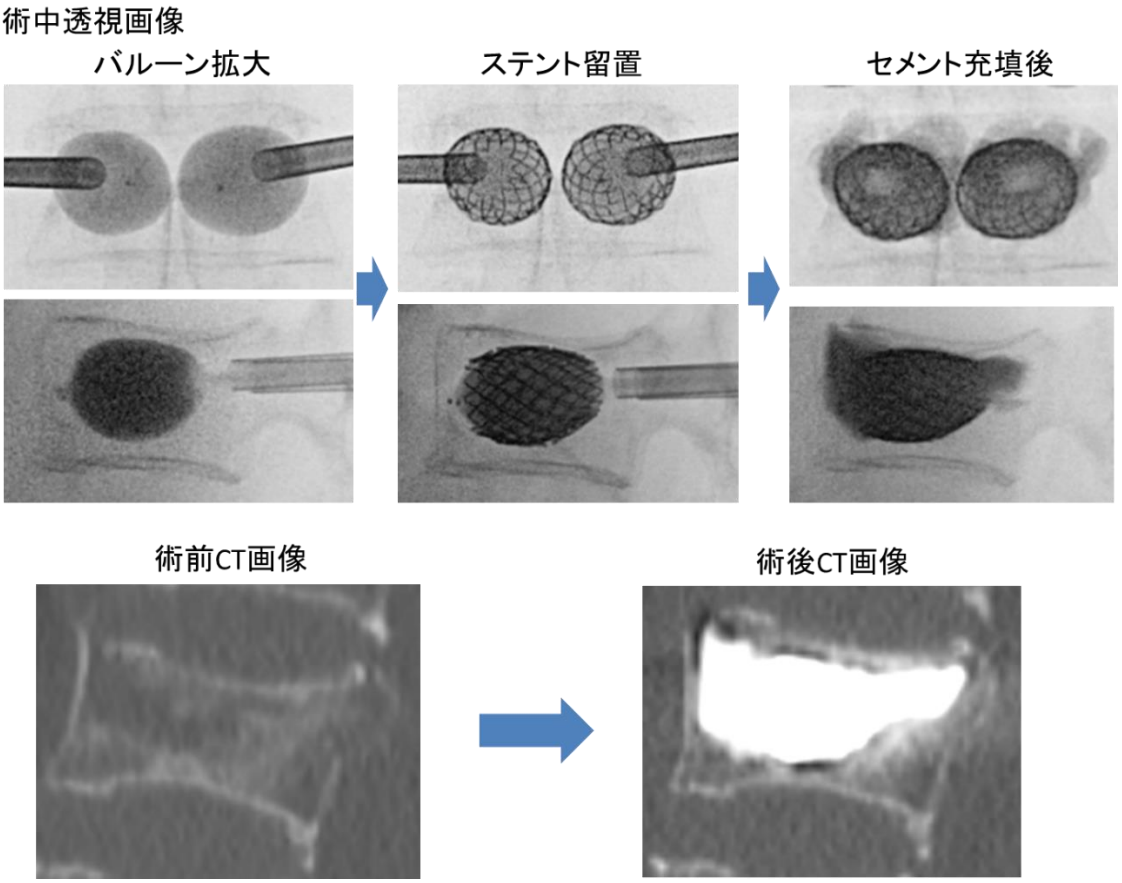高齢者の椎体骨折（圧迫骨折）に対する低侵襲手術として、バルーンを用いた後弯形成手術（BKP：Balloon Kyphoplasty）を当院でも行っておりましたが、2024 年からは新たな術式である VBS(Vertebral body stenting)による椎体形成術を導入しています。VBS は BKP と異なり、変形した骨折椎体をバルーンにて本来の形に近いところまで復元した後、ステントを留置することで復元を維持することが可能であり、かつステント内にセメントを留置することでセメント漏出が少なく、より安全性が高い術式です。椎体骨折すべてが除痛目的の手術適応ではありませんが、遷延癒合・偽関節などにつながる予後不良因子を有する症例に関しては、早期外科治療介入も行っています。